

記録
16ミリ
カラー／22分

■ 自主企画
■ 協力
日本映画教育協会

スタッフ
■ 製作
村山和雄
■ 脚本
福岡順子
■ 演出
山下秀雄
■ 撮影
北川英雄
■ 照明
谷川庄三
■ 選曲
西山 登
■ 解説
幸田弘子

文部省特選 1980年教育映画祭優秀作品賞

最近の子供たちを取り巻く生活環境の急激な変化は、子供たちの基礎体力にも大きな影響を及ぼしている。体格は大きくなったのに、基礎体力の劣った子供が多くなった。人間の生涯の中で、幼児期はその後の心と体の基礎づくりをする大切な時期であるが、親は、とするとあせって世話を焼きすぎたり、子供の成長を歪めてしまいがちなものである。この映画は、3人の幼児の成長を追いながら子育ての基本を解説する。



幼児は、3歳から4歳になると運動能力が大きく発達してくるが、個人差があり、様ではない。4歳のマーちゃんは、まだボールがうまく受けとめられない。日頃ボール遊びの経験が少なかったようだ。大ちゃんはみんなの中になかなか入れない。スポーツクラブやお絵かき教室に通っているが、お母さんの指示に縛られて、とけこめないでいる。

地域で母と子の遊びを工夫している自主的な集まりがある。そのグループで学んできたリカちゃんとお母さんは、家でも楽しく一緒に運動している。昼間思い切り体を動かすと、食欲も進み、夜もぐっすりよく眠れる。マーちゃんのお母さんは、マーちゃんと一緒にボール遊びを始めた。大ちゃんのお母さんは、お父さんにも協力してもらって、大ちゃんを子供たちの世界に送り出す努力を始めた。今まで仲間と遊べなかった大ちゃんが、いつのまにかみんなの中にとけこんでいった。子供たちはこうして今まで知りえなかったことを学び、自分たちだけの世界をつくっていく。大ちゃんのお母さんの呼び掛けで、友達やそのお母さんたちが自然の中でお弁当をひろげ、思う存分に子供たちを遊ばせている。子供たちはそうした中で、のびのびとたくましく育っていく。